

3.3 管理体制および計測頻度

気象庁の沿岸波浪予測結果および神奈川県西部の波高予測から、現地海岸の波高を監視することで異常の兆候を察知し、管理体制に反映させる。

計測頻度を表 - 3.3 に示すが、台風時および大型低気圧発生時には 24 時間体制とする。
3m 以上の波 が観測された場合には、パトロールを実施する。

3m 以上の波は、漁師が操業を中止する状況。
また、震度 3 以上の地震発生時には計測値を確認するとともに、パトロールを実施する。

表 - 3.3 計測頻度（路盤沈下・鋼矢板 A 変位）			
管理体制 レベル		波高データ	計測頻度 （回 / 1 日）
通常		$H_0 < 3\text{m}$	1
異常時	注意・警戒体制	$3 \leq H_0 < 4\text{m}$	3
	非常体制	$4\text{m} \leq H_0$	6

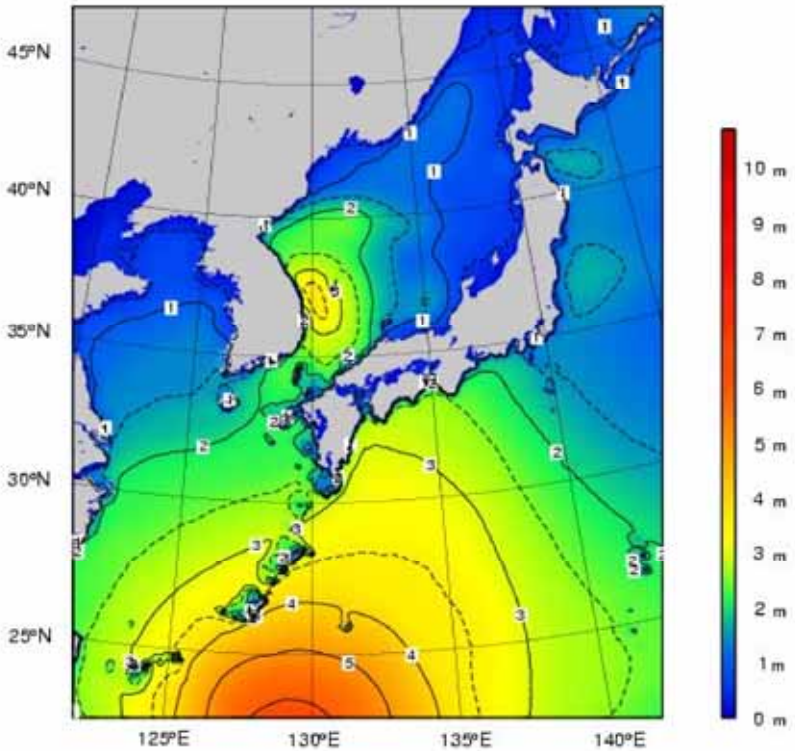
表 - 3.4 計測頻度（目視・鋼矢板 B 変位・土のう沈下）	
計測頻度	
STEP1	STEP2
1 回 / 日	1 回 / 週または $3\text{m} < H_0$ の波が発生したとき

沿岸波浪の予測方法（参考）

気象庁では、午前9時の波浪の状況の予想を示した予想図を毎日作成して発表しています。また、暴風域を伴った台風が日本の沿岸に接近しているときには、臨時情報として午後9時の予想（沿岸）も発表しています。

波浪の状況はこちらからどうぞ。[沿岸の波浪](#)

波浪の予想（沿岸）：9月17日午前9時（9月16日午後4時頃発表）



〔沿岸波浪図利用上の注意〕

- 波の高さを等波高線で示しています。等波高線は、1メートルごとの実線と0.5メートルごとの破線（4メートル未満の領域のみ）を表示しています。
- 波の高さは「有義波高」で示しています。「有義波高」の解説はこちらからどうぞ。[（解説）](#)
- 実際の波には、有義波よりも高い波が含まれているので注意が必要です。
- 「波浪予想図」では、空間規模が比較的大きな波高分布の特徴を表現していますので、沿岸の波浪については、地元気象台が発表する最新の「[天気予報](#)」の中の波浪予報をご利用ください。

〔沿岸波浪予想図〕

- 気象庁では、無線ファックス放送により、より詳しい波浪図を提供しています。こちらからどうぞ。[沿岸波浪予想図（pdfファイル、約150kB）](#)
- 沿岸波浪図の解説は、こちらからどうぞ。[（解説）](#)

3.4 計測管理値および通行規制

下記に示す管理値を設置し，各管理レベルに達した場合には速やかに対応策を講じる．

- 1 次管理値：□計測頻度を増す
- 関係者および関係機関へ連絡
- 今後の予測および対策工の検討を実施する
- 2 次管理値：対策の準備および通行止めの準備を行う．
- 管理限界値：上り線の通行止めおよび二次施工工事を中止し，対策を協議する．

表 - 3.5 計測管理レベルと通行規制

計測管理 レベル	管理レベル	計測データ		通行規制
		鋼矢板 A 天端 の水平変位	路盤沈下	
通常	0 次	-	-	通常運行
異常時	1 次	30 mm	15 mm	
	2 次	48 mm	25 mm	
	限界値	60 mm	30 mm	通行止め

なお，下記の各値についてはこれらが管理値に達した場合には，安全性について検討を行い関係機関と技術協議を行う．

表 - 3.6 計測管理レベル

計測 / 目視	項目	管理値	変状確認方法
計測	鋼矢板 B 天端の水 平変位	115 mm	管理値を超えた場合、 Web カメラにて異常の有 無を確認する．
	大型土のう 沈下	150 mm	
目視	大型土のう	—	大きな崩れ，または落下 の有無の確認
	消波工	—	流失の有無の確認
	鋼矢板の天端の ならび	—	鋼矢板の大きな倒れの有 無

上記復旧構造の安全性確保の観点に加え，走行性の観点も含めて通行規制は右のフローにより実施する．

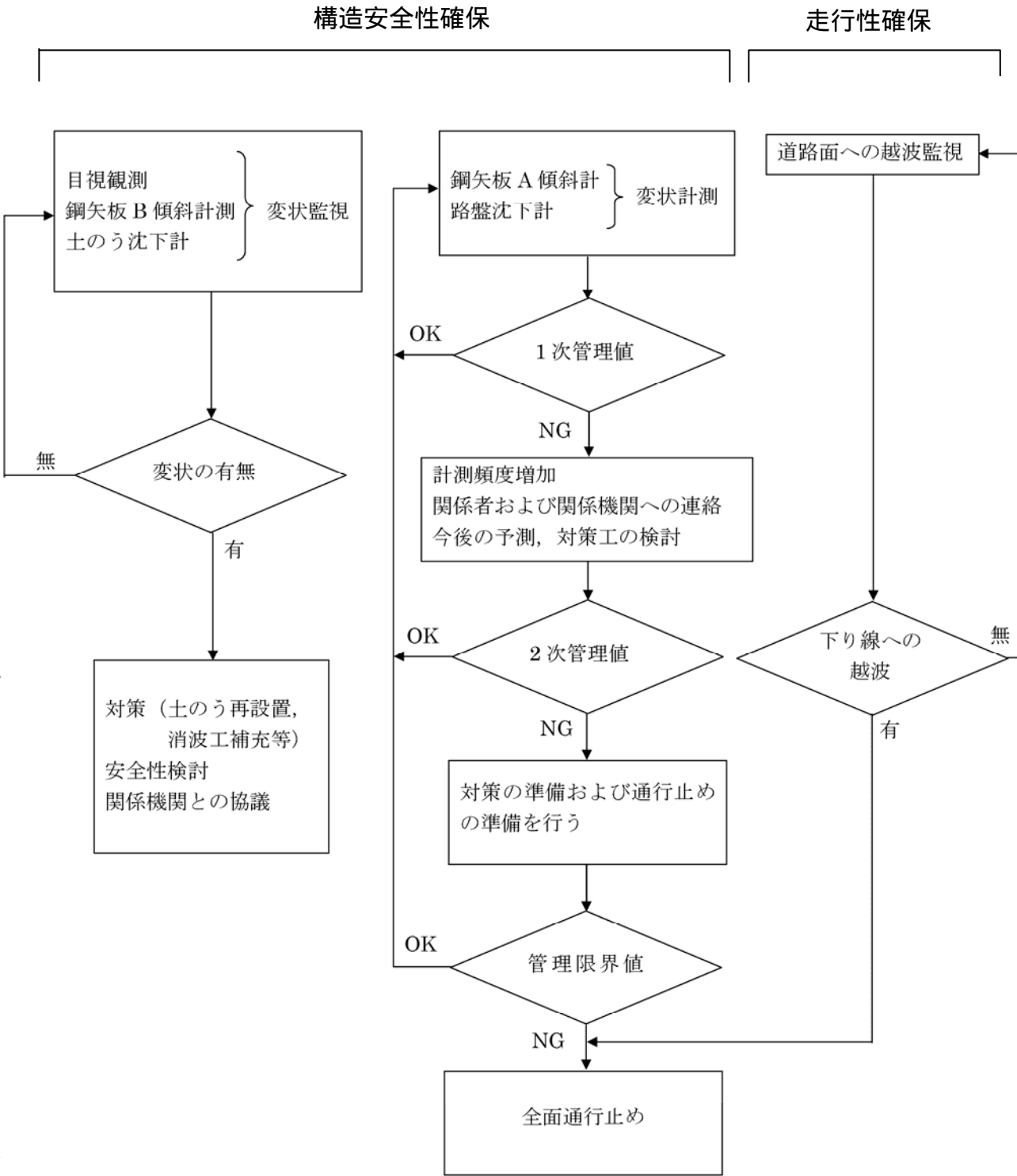


図 - 3.6 管理計画フロー（案）